

国内マグネシウム 2019 年需要実績／2020 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

分類\年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	前年比	2020 予測
ダイカスト	5,800	5,800	5,300	4,800	5,200	5,100	98.1%	—
鋳物	70	70	70	70	130	190	146.2%	—
射出成形	300	300	400	480	960	1,200	125.0%	—
展伸材	700	750	750	770	800	800	100.0%	—
その他合金	200	230	200	230	400	300	75.0%	—
構造材小計	7,070	7,150	6,720	6,350	7,490	7,590	101.3%	—
アルミ合金添加	21,000	20,800	21,500	22,000	17,100	17,000	99.4%	—
鉄鋼脱硫	5,500	5,600	5,500	5,500	4,000	4,140	103.5%	—
ノジュラー鋳鉄	2,725	2,200	2,500	2,600	2,700	2,700	100.0%	—
チタン製錬	420	1,000	800	600	700	1,010	144.3%	—
化学・触媒	1,800	2,200	2,100	1,800	1,800	1,500	83.3%	—
添加材小計	31,445	31,800	32,400	32,500	26,300	26,350	100.2%	—
防食その他	1,200	1,200	950	990	1,100	925	84.1%	—
内需小計	39,715	40,150	40,070	39,840	34,890	34,865	99.9%	—
輸出	575	1,158	600	227	258	225	87.2%	—
総需要	40,290	41,308	40,670	40,067	35,148	35,090	99.8%	—

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。再生材は含んでいません。

<2019 年の需要実績>

- ①2019 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 1.3%増の 7,590 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 0.2%増の 26,350、防食その他向けが同 15.9%減の 925 トン、輸出が同 12.8%減の 225 トンとなり、全体では 35,090 トンで同 0.2%微減と、ほぼ横ばいでの推移となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要では、鋳物部門が前年比 46.2%増の 190 トン、射出成形部門が同 25%増の 1,200 トンと増加し、増加が期待されていたダイカスト部門が同 1.9%減の 5,100 トン、展伸材部門が同横ばいの 800 トンとなり、その他合金の同 25.0%減となる 300 トンと合わせ、合計は前年から若干増加の 7,590 トンとなった。自動車分野における環境負荷軽減や電動化に伴う軽量化ニーズの高まりにより、環境負荷の少ない製造工程である射出成形品は、使用部品のサイズ増、部品数の増により需要量の増加が続いた。鋳物は、航空宇宙分野での試作対応等、自動車部品以外での使用量が増加傾向にある。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けの需要は、主要分野のアルミ合金添加部門が前年比 0.6%減の 17,000 トン、鉄鋼脱硫部門が同 3.5%増の 4,140 トン、ノジュラー鋳鉄部門は同横ばいの 2,700 トンと、前年から安定的に推移した。その他、チタン製錬部門は同 44.3%増の 1,010 トン、化学・触媒部門はやや低調で同 16.7%減の 1,500 トンとなり、合計は 26,350 トンとほぼ横ばいでの推移となった。
- ④防食その他は、前年比 15.9%の減少となったが、数量のうち約 100 トンが防食向けの需要で、これはほぼ横ばいでの推移となったが、その他の特殊な用途の需要量が減少することとなった。
- ⑤地金の輸出は財務省貿易統計の数値によるもので、純マグネシウム地金が 0.5 トン、マグネシウム合金地金が 224.5 トンとなり、前年から 12.8%減の 225 トンとなった。

<2020 年の需要予測>

2020 年に需要増が見込まれる分野もあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により、全体での需要減は避けられないと思われる。ただし、今後の状況を見極め、数値を予測することが困難であるため、現時点での 2020 年の需要量予測は見送ることとした。